

【科目名】解剖学 I (総論)		【担当教員】松村 博雄						
【授業区分】 専門基礎分野 (基礎医学)	【授業コード】 2-11-0230-0-1	(メールアドレス)						
【開講時期】1 年次 通年	【選択必修】必修	(オフィスアワー)						
【単位数】3 単位	【コマ数】30 コマ	授業開講日						
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・理学療法学専攻及び作業療法学専攻 1 年次に在学している学生が対象。 (受講のルールに関わる情報・予備知識)								
【講義概要】 (目的) 医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトのからだの特徴を理解する。長い生物の進化・発展の結果として、わたくしたちのからだがあることを学習し、生命の尊厳、医の倫理を習得する端緒とすることができる。 (方法) 主として配付資料および教科書、図譜を通しての講義。また、それだけではなく、標本、模型などによる実習を組み合わせ学習する。								
【一般教育目標(GIO)】 医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。								
【行動目標(SBO)】 ヒトのからだを構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。 関節の構造やその運動を説明できる。								
【教科書・リザーブドブック】 河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版, 2006年. ¥6,195 大川 淳・秋田恵一 監訳『ポケットチューター 体表からわかる人体解剖学』南江堂, 2014年, ¥2,916								
【参考書】 森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版, 1985年. ¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版, 1984年. ¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版, 1982年. ¥9,030 萬年 甫・原 一之『脳解剖学』南江堂, 1994年. ¥9800								
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 成績評価は、試験と小テストなどを総合して行う。								
【達成度評価】	試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	45	45					10	100点
評 取り込む力・知識								

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)					
1	解剖学総論、科学することとはなにか、解剖学はなぜ必要か	講義							
2	比較解剖学、人体発生学の初歩 ヒトのからだのでき方	講義							
3	人体構造の基本、分節構造と層序構造 神経と筋肉——胸郭を中心に	講義	前回講義の復習	30～40分					
4	体幹（1）椎骨・肋骨の構造、脊髄の基本—— ニューロン、白質と灰白質	講義	前回講義の復習	30～40分					
5	体幹（2）脊髄神経の基本——前根と後根、前 枝と後枝、	講義	前回講義の復習	30～40分					
6	体幹（3）骨と筋肉の組織学、末梢神経の組織 学	講義	前回講義の復習	30～40分					
7	骨学実習（1）椎骨、肋骨、胸骨	実技、チーム活 動、口頭発表							
8	体幹（4）胸壁：肋間神経、横隔膜	講義	前回講義の復習	30～40分					
9	体幹（5）腹壁：肋間神経、鼠径部	講義	前回講義の復習	30～40分					
10	体幹（6）頸部：頸神経叢、頸部は胴体の続き	講義	前回講義の復習	30～40分					
11	体幹（7）後枝：固有背筋、背部	講義	前回講義の復習	30～40分					
12	上肢（1）上肢帯（肩甲骨と肩関節）、関節と 運動（屈曲、伸展、外転、内転、内旋、外旋、 回内、回外）	講義	前回講義の復習	30～40分					
13	上肢（2）肩関節の筋肉、腕神経叢	講義	前回講義の復習	30～40分					
14	上肢（3）上腕と肘関節①——骨と筋肉、その 運動	講義	前回講義の復習	30～40分					

平成 26～28 年度入学者用

15	上肢（4）肘関節②、前腕の骨と筋肉、その運動 手関節①	講義	前回講義の復習	30～40分
16	骨学実習（2）上肢帯、上肢（上腕、前腕、手）の骨	実技、チーム活動、口頭発表		
17	上肢（5）手関節② 手根管と屈筋支帯	講義	前回講義の復習	30～40分
18	上肢（6）手掌・手背の筋肉とその運動、指の筋肉とその運動	講義	前回講義の復習	30～40分
19	上肢（7）上肢の神経のまとめ——分節と層序、根、幹、束	講義	前回講義の復習	30～40分
20	上肢（8）上肢の局所解剖学 動脈と静脈	講義	前回講義の復習	30～40分
21	下肢（1）下肢帯（骨盤）、大腿、下腿、足の骨格	講義	前回講義の復習	30～40分
22	下肢（2）腰神経叢（大腿神経、閉鎖神経）	講義	前回講義の復習	30～40分
23	下肢（3）仙骨神経叢（坐骨神経、脛骨神経、総腓骨神経、浅・深腓骨神経、足底神経）	講義	前回講義の復習	30～40分
24	骨学実習（3）下肢帯（骨盤）、下肢（大腿、下腿、足）の骨	実技、チーム活動、口頭発表		
25	下肢（4）鼠径部、大腿内側・前面の局所解剖学	講義	前回講義の復習	30～40分
26	下肢（5）股関節——構造、運動、関与する筋肉とその神経	講義	前回講義の復習	30～40分
27	下肢（6）膝関節——構造、運動、関与する筋肉とその神経	講義	前回講義の復習	30～40分
28	下肢（7）距腿関節と距骨下関節——構造、運動、関与する筋肉とその神経	講義	前回講義の復習	30～40分
29	下肢（8）歩行と足底のアーチ	講義	前回講義の復習	30～40分
30	下肢（9）上肢と下肢の比較、脊髄神経の伝導路	講義	前回講義の復習	30～40分

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。

【科目名】解剖学 I (総論)		【担当教員】西野幾子						
【授業区分】専門基礎 (基礎医学)	【授業コード】 2-11-0230-0-1	(メールアドレス) (オフィスアワー)						
【開講時期】1 年次 通年	【選択必修】必修	授業開講日、非常勤控室で対応						
【単位数】3 単位	【コマ数】30 コマ							
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件) 言語聴覚学科 1 年次に在学している学生が対象。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識) 修学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。</p>								
<p>【講義概要】</p> <p>(目的) 医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。</p> <p>(方法) 教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習、ならびに問題の論議による演習を組み合わせる。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。</p>								
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。</p>								
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>人体を構成する細胞、組織について、その構成や特徴を説明できる。 骨、筋、循環器系、呼吸器系、消化器系について、その形態や構造を説明できる。</p>								
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>小林靖著『言語聴覚士のための解剖・生理学』 医歯薬出版、2014 年、¥4,000+税</p>								
<p>【参考書】</p> <p>坂井建雄著『プロメテウスコアアトラス 第 2 版』 医学書院、2014 年、¥9,500+税</p>								
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程の GPA 制度に従う。</p>								
【達成度評価】	試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合	100							100 点

平成 26～28 年度入学者用

評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	解剖学とは 基礎知識と用語、発生	講義	講義内容の復習	20分
2	細胞	講義	講義内容の復習	40
3-5	組織	講義	講義内容の復習	40
6	骨学 総論：骨の構成と種類	講義	講義内容の復習	40
7-10	骨学 各論：人体各部位の骨	講義	講義内容の復習	40
11	筋学 総論：筋と補助装置	講義	講義内容の復習	40
12-16	筋学 各論：人体各部の筋	講義	講義内容の復習	40
17	循環器系 総論、心臓	講義	講義内容の復習	40
18-21	循環器系 血管系とリンパ管系	講義	講義内容の復習	40
22-24	呼吸器系 鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺	講義	講義内容の復習	40
25	消化器系 総論：消化器系の構成と基本構造	講義	講義内容の復習	40
26-30	消化器系 各論：各器官の形態と関係	講義	講義内容の復習	40

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。